

プレスリリース

搬送ロボットで医療従事者の負担軽減に向けた実証実験を実施

～約 3.5 時間/日、年間 1368 時間の削減効果を検証～

メルコモビリティソリューションズ株式会社（代表取締役社長：青木 泰男、本社大阪市福島区）は、2024 年 5 月 27 日（月）より、聖マリアンナ医科大学病院にて、医療現場における「医師の働き方改革」や「2025 年問題」などの社会的課題に対応するための実証実験を開始しました。この実証実験では、同社が取扱う病院向け搬送ロボット「MELDY（メルディー）」を用いて、医療従事者の負荷軽減に関する効果を検証しています。

実証実験の目的

実証実験の概要

期間：2024 年 5 月 27 日（月）～2024 年 12 月末日

場所：聖マリアンナ医科大学病院

対象業務：集中治療エリア向けの薬剤搬送業務

使用ロボット：搬送ロボット「MELDY」2 台

運用形式：平日、日中稼働

搬送ロボット「MELDY」の特徴

病院内を安全に自律走行できる搬送ロボットとなります。

エレベーターや入退室管理システムと連携し、自律的な縦横移動が可能であり、荷物室の施錠・解錠は職員カードとの連携も可能なため、高いセキュリティ性を確保しております。

＜主な特徴＞

- ①一度に大容量の荷物を搬送可能（最大 210L、30kg に対応）
- ②床面ライティング表示で視覚的にもロボットの動作をお知らせ可能
- ③オンプレサーバを利用することでロボットの稼働状況、職員情報を院内で保存可能



実証実験によって期待できる効果

医師の働き方改革への対応

2024 年 4 月よりスタートして「医師の働き方改革」による残業時間の上限（年間 960 時間）を踏まえ、MELDY の活用により、医師やその他の有資格者のタスクシフトを促進し、業務時間の削減に貢献できるかを検証します。

2025 年問題における人材確保の支援

2025 年には日本の総人口の約 1/4 が後期高齢者になることが見込まれており、医療需要の増加と労働人口の減少が課題となります。MELDY が搬送業務を担うことで、医療現場における人手不足の解消をサポートできるかを確認します。

期待される時間削減効果

過去の実証実験より、MELDY の導入により 1 日あたり約 3.5 時間、年間では約 1368 時間の削減が期待されています。

<過去の実証実験>

・フェーズ 1

ユースケース：集中治療エリア向け搬送

運用形式：2 台、平日、日中稼働

時期：2023 年 12 月 6 日（水）～12 月 19 日（火）

・フェーズ 2

ユースケース：集中治療エリア・一般病棟向け搬送

運用形式：2 台、平日、日中稼働

時期：2024 年 1 月 11 日（木）～1 月 24 日（水）

・フェーズ 3

ユースケース：集中治療エリア・一般病棟向け搬送

運用形式：2 台、平日・土日祝、日中稼働

時期：2024 年 2 月 20 日（火）～2 月 29 日（木）

・フェーズ 4

ユースケース：集中治療エリア向け搬送

運用形式：2 台、平日、24 時間稼働

時期：2024 年 3 月 13 日（水）～3 月 15 日（金）

実証実験の進捗と関係者コメント

実証実験は順調に進行しており、薬剤部のスタッフからは以下のようなコメントが寄せられています。

・聖マリアンナ医科大学病院 薬剤部 薬剤師のコメント

「当院では新病院への移転後、調剤業務は機械化が進んでいる一方で、薬剤の搬送は依然として人が行っており、負担となっていました。MELDY を試験的に運用した結果、職員による薬剤搬送時間が短縮されました（実証データ解析中）、ロボットの導入により、日中業務の効率化が見込まれます。将来的には、休日にも MELDY が稼働することで、さらなる搬送業務の負担が軽減されることを期待しています。」

今後の展望

メルコムビリティソリューションズ株式会社は、今後も医療現場における搬送業務の自動化を推進し、医療従事者の業務負担軽減と医療サービスの質の向上を目指します。本実証実験の結果をもとに、さらなる改良を加え、将来的な全国展開を視野に入れて活動を進めていきます。

お問合せ先

メルコムビリティソリューションズ株式会社 搬送ロボット営業部

〒105-0011 東京都港区芝公園 1 丁目 7 番 6 号 KDX 浜松町プレイス 10F（東京本社）

TEL: 03-6402-7624

E-mail: contact_robot@mems.co.jp